

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当の基準日	
期 末 配 当	3月31日
中 間 配 当	9月30日
定 時 株 主 総 会	毎年6月
株 主 名 簿 管 理 人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711（通話料無料）
上 場 証 券 取 引 所	東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）
公 告 の 方 法	電子公告により行います。 公告掲載URL http://www.ajis-group.co.jp/ir/e-koukoku/index.html （ただし、電子公告によることができない事故、 その他のやむを得ない事由が生じたときは、 日本経済新聞に公告いたします。）

○ 株主優待制度のご案内

株式会社エイジスは、株主の皆様への利益還元のひとつとして株主優待制度を実施しております。



- 割当基準日 9月末日
- 優待内容
 - 100株以上1,000株未満所有の株主様
お米券3kgを贈呈いたします。
 - 1,000株以上10,000株未満所有の株主様
お米券5kgを贈呈いたします。
 - 10,000株以上所有の株主様
お米券10kgを贈呈いたします。

（ご注意）

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ご案内

1. 2014年以降の上場株式等の配当等に係る源泉徴収税率について

2014年1月1日以降に、個人の株主様がお支払いを受ける上場株式等の配当等には、原則として20.315%*の源泉徴収税率が適用されます。
※所得税15%、復興特別所得税0.315%、住民税5%。なお、株主様によっては異なる税率が適用される場合もございます。詳細につきましては、最寄の税務署、税理士等にお問合せください。

2. 少額投資非課税制度口座（NISA口座）における配当等のお受け取りについて

新規に購入された当社株式をNISA口座でご所有される場合、配当等につき非課税の適用を受けるためには、口座管理機関（証券会社等）を通じて配当等を受け取る方式である「株式数比例配分方式」をお選びいただく必要があります。ご所有の株式のうち、特別口座に記録された株式をお持ちの株主様は「株式数比例配分方式」をお選びいただくことができませんのでご注意ください。NISA口座に関する詳細につきましては、お取引の証券会社等にお問合せください。

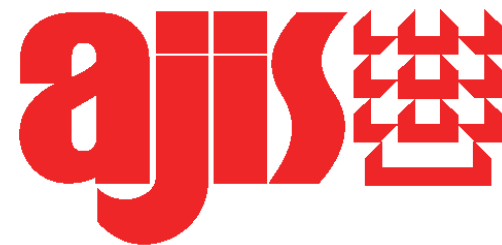


株式会社エイジス
〒262-0032 千葉県千葉市花見川区幕張町4-544-4
TEL：043-350-0888 FAX：043-350-0800

第38期 中間報告書

2014年4月1日から2014年9月30日まで

売場の生産性を高める戦略的アウトソーシング



株式会社エイジス

証券コード：4659

エイジスグループの使命

エイジスグループは、チェーンストアをサポートすることによって社会貢献する企業です。

経営基本方針

私共の事業目的は、正確さを犠牲にすることなく、効率の良い棚卸サービスで、自信をもった「棚卸報告」を提供し、お客様の経営判断に重要な役割を果たすことです。

エイジスグループは、実地棚卸サービスなどのリテイルサポートサービスを提供することにより、チェーンストアをサポートしていくことで社会貢献をしています。

それと同時にエイジスグループは、「人」を育成していく役割も担っています。

なぜなら、エイジスグループの仕事は、人がいて初めて成り立つ仕事だからです。どんなにテクノロジーが進化しても、人でなければできない仕事があります。その中のひとつが実地棚卸サービスであり、リテイルサポートサービスです。

人が資産の仕事ですから、エイジスグループは社員を大切にし、社員とともに成長し、さらなる社会貢献を目指します。

トップインタビュー

国内棚卸サービスの生産性が改善し、前中間期に引き続いての増収増益を達成しました。

代表取締役社長 齋藤 昭生



Q

当中間期の事業環境と経営成績についてお聞かせください。

当第2四半期連結累計期間（以下、当中間期）の連結経営成績は、前中間期に引き続いての増収増益を達成いたしました。海外棚卸サービスはやや苦戦しましたが、主力の国内棚卸サービスが生産性の改善によって大幅な増益となったことが業績を下支えしました。

国内棚卸サービスでは、既存顧客を中心に売上高が堅調に推移したことに加え、生産性の改善に向けた様々な取り組みが功を奏した結果、売上原価率が低減しセグメント利益は前年同四半期比34.2%の大幅増となりました。特に生産性については大幅な改善を見せており、2009年3月期中間期を100とした当社の指標では、当中間期の生産性は112となり、前年同四半期を3ポイント上回って3期ぶりの改善を

果たしました。棚卸作業に用いるソフトウェアやハードウェアを改良したことや、現場の管理能力の向上、さらに棚卸繁閑差の解消が着実に進展していること等が結実したと捉えています。

一方、海外棚卸サービスとリテイルサポートサービスは、いずれも増収減益となりました。海外棚卸サービスでは、前年同四半期比21.0%の増収と販路開拓は順調に進んでいますが、業容拡大に伴って中国事業の売上原価率が悪化したことなどから、損失額が拡大する結果となりました。

また、リテイルサポートサービスでは、連結子会社2社がいずれも増収となりましたが、業容拡大による立ち上げコストが膨らんだこと等が僅少ながら減益要因となりました。

これらの結果、当中間期の経営成績は、売上高は10,320百万円（前年同四半期比5.1%増）、営業利

益は718百万円（前年同四半期比32.1%増）、経常利益は739百万円（前年同四半期比32.7%増）、四半期純利益は426百万円（前年同四半期比43.8%増）となりました。

Q 今後の成長戦略についてお聞かせください。

当社グループは2017年3月期を最終年度とした中期経営計画を推進中です。主力事業である国内棚卸サービスの収益力強化を図り、成長分野である海外棚卸サービスやリテイルサポートサービスを育成していくという将来ビジョンを描いております。国内棚卸サービスの強化については引き続き、棚卸機器の革

新、従業員のさらなるレベルアップ、および永遠の課題である棚卸繁閑差の解消に向けた努力を継続してまいります。棚卸機器に関しては、最先端の技術を積極的に取り入れ、大幅な生産性向上を実現できるようなシステムの

開発に取り組んでまいります。

海外棚卸サービスについては、2015年3月期に事業全体での黒字化の計画としていましたが、当中間期の実績が計画を下回っていることや足元の業績を踏まえ、収益貢献は1年遅れる見込みです。特に計画を下回っている中国事業は抜本的な対策を講じ、計画実現に向けて邁進してまいります。

リテイルサポートサービスについては、将来、国内棚卸サービスを超える事業に育成したいと考えております。集中補充サービスや覆面調査サービスといった既存サービスの拡大のみならず、新規サービスの開発という両輪で事業を成長させてまいります。

Q 下期の主な取り組みと通期業績予想についてお聞かせください。

通期業績予想については当中間期の業績などを踏まえて、利益予想を上方修正いたしました。しかしながら、下期は流通小売業界を取り巻く外部環境の不透明感が続くと見ており、楽観視できない状況です。このところの労働力不足の深刻化は、国内棚卸サービスの最繁忙期である2月に向けての人材確保という面で特に注意を払わなければならないと警戒しております。

下期の主な取り組みとしては、当中間期の生産性改善を支えた棚卸作業用のハードウェアとソフトウェ

アの全面展開を予定しています。また、中国事業の建て直しに向け、本社と海外現場の役割分担の見直しを図る等の計画を鋭意推進してまいります。

通期連結 業績予想	売上高	21,450百万円 (前期比4.5%増)
	営業利益	1,510百万円 (前期比22.6%増)
	経常利益	1,533百万円 (前期比23.0%増)
	当期純利益	907百万円 (前期比53.0%増)

Q 最後に、株主様へのメッセージをお願いします。

当中間期の増収増益の牽引役となったのは、主力の国内棚卸サービスにおける大幅な生産性の改善です。品質の向上や棚卸繁閑差の解消など、長い時間をかけて取り組んできた当社グループの努力がようやく結果となって現れたと感じております。今後はこの効果を定着させていくことで、当事業の安定的な成長を実現し、併せて新規事業の育成につなげていくという理想的なサイクルを実現できるよう努めてまい

ります。

株主の皆様におかれましては、当社グループの取り組みを是非ご理解いただき、今後ともさらなるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

株主総会ダイジェスト

第37回定時株主総会を開催いたしました。

当社は2014年6月27日エイジス本社「大ホール」において、第37回定時株主総会を開催いたしました。ご出席いただきました株主様におかれましては、改めて御礼申し上げます。

決議事項

第1号議案	剰余金処分の件
第2号議案	定款一部変更の件
第3号議案	取締役9名選任の件
第4号議案	監査役1名選任の件
第5号議案	当社株式の大量取得行為に関する対応策（買収防衛策）継続の件

〈対処すべき課題〉

1. 技術開発ならびに人材の定着による実地棚卸サービスの精度、生産性のさらなる向上
2. 国内外の顧客に対する棚卸アウトソーシングニーズを顕在化させる提案営業
3. 実地棚卸サービス以外の顧客のニーズに対応する集中補充サービスをはじめとするリテイルサポートサービスの拡充等

AJIS(MALAYSIA)SDN.BHD. (エイジスマレーシア)

所在地 マレーシア セランゴール州

設立 2009年3月19日

資本金 100百万円

事業内容 実地棚卸サービス



エイジスマレーシアのスタッフ

AJIS(MALAYSIA)SDN.BHD. (以下、エイジスマレーシア) はエイジスグループのASEAN展開の最初の拠点として2009年マレーシアに設立されました。現在はG.M.S. (注)、ハイパーマーケット、百貨店、専門店を中心に実地棚卸サービスを提供致しております。

マレーシアは人口約3,000万人を有しており、ASEAN各国の中心的な場所に位置しているためASEAN各国との連携が良く、比較的安定した政治体制と整ったインフラが魅力となっています。また1981年からのルックイースト政策による親日的な国民性の要素も加わり、特に日系企業にとっては良好な事業環境であるといえます。

政策により小売業の近代化の実現を目的として日系大手小売業の受入れを既に30年前に行っており、今では現地に浸透した営業が行われています。

小売業への外国資本参入に関する規制は残るものの、近年においても外資系小売業のマレーシアへの関心度は高く、進出する企業は増加しております。

順調な経済成長を背景にマレーシアでは既に大型ショッピングモールが数多く展開されております。現在は都市圏に集中しているものの近い将来は地方にも拡大していく事が見込まれ、当社のビジネスチャンスも更に広がっていくと期待しています。

現在、首都クアラルンプールの隣接地域であるセラン

ゴール州の1事業所でマレーシア全域に対してサービスを提供しております。今後につきましてはお取引先様の利便性とサービス提供能力の拡大を目的として全国に事業所を展開してまいります。

同時にマレーシアにおきましては、まだ実地棚卸のアウトソーシング効果について十分に認知されているとはいえません。第三者の立場として当社が実施する“公正性”と“高精度のカウントデータ”が経営に貢献できる事を積極的に周知してまいります。

今後は実地棚卸サービスのみならずリテイルサポートサービスにも対応できるよう準備を進め、店舗作業の効率化と標準化にも貢献していきたいと考えております。

エイジスマレーシアは、小売業の発展を通して、すべてのマレーシア国民の豊かな暮らしの実現に貢献できるよう社員一同努力してまいります。

AJIS(MALAYSIA)SDN.BHD.
代表取締役社長

手塚 勝也



(注) G.M.S. (General Merchandise Store) …大衆実用品のうち、新機能開発品主力の総合店。いわゆる日本型総合スーパーであります。

売上高

10,320百万円
(前年同四半期比5.1%増)

営業利益

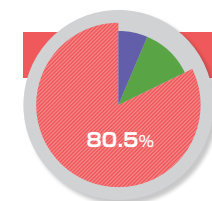
718百万円
(前年同四半期比32.1%増)

経常利益

739百万円
(前年同四半期比32.7%増)

四半期純利益

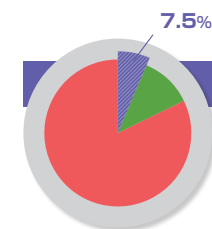
426百万円
(前年同四半期比43.8%増)



国内棚卸サービス

売上高 >> 8,310百万円
セグメント利益 >> 748百万円

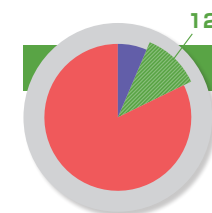
●生産性の改善による人件費の抑制で売上原価率が1.8ポイント低減したことにより、セグメント利益は前年同四半期比34.2%増となりました。



海外棚卸サービス

売上高 >> 772百万円
セグメント損失 >> 93百万円

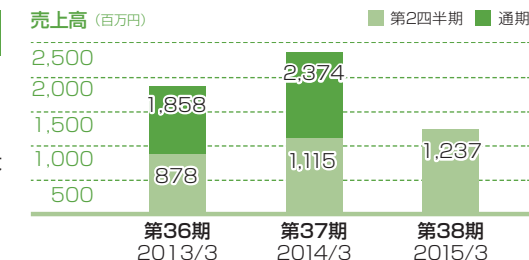
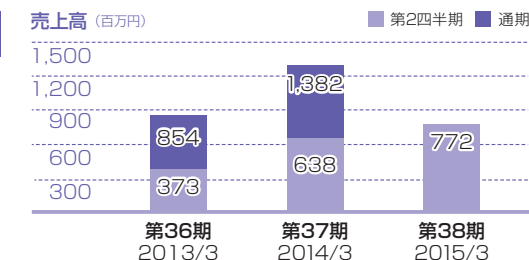
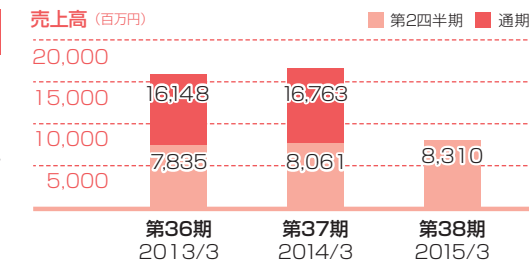
●増収基調で推移しておりますが、セグメント利益は売上増加による経費増により前年同四半期比15百万円の損失増加となりました。



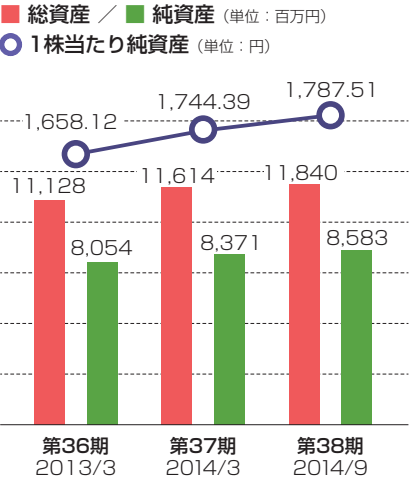
リテイルサポートサービス

売上高 >> 1,237百万円
セグメント利益 >> 60百万円

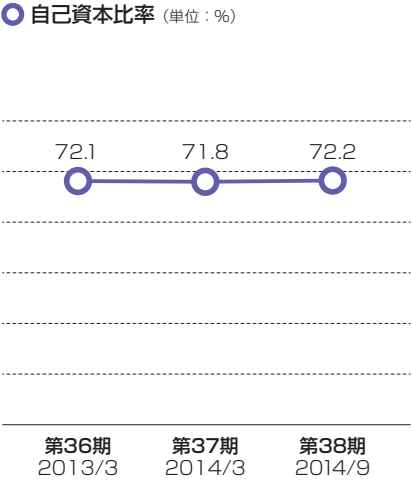
●増収基調で推移しておりますが、セグメント利益は業務拡大による立ち上げコスト等により前年同四半期比0.1%減となりました。



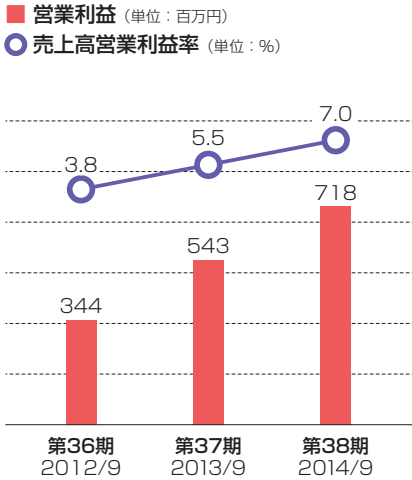
財 政 面



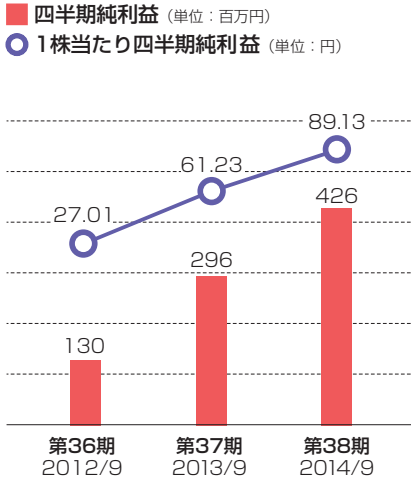
総資産は前期末に比べ226百万円増加して11,840百万円となりました。純資産は前期末に比べ211百万円増加して8,583百万円になりました。これは主として、利益剰余金の増加によるものです。なお、自己資本比率は前期末に比べ0.4ポイント増の72.2%となりました。



収 益 面

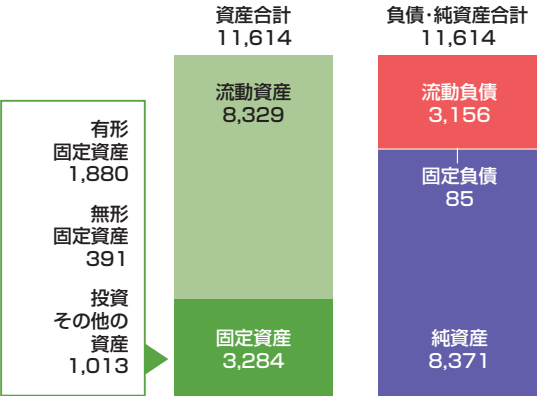


国内棚卸サービスの収益改善に伴い、営業利益は前年同四半期比174百万円増加して718百万円となりました。四半期純利益は前年同四半期比129百万円増加して426百万円となりました。

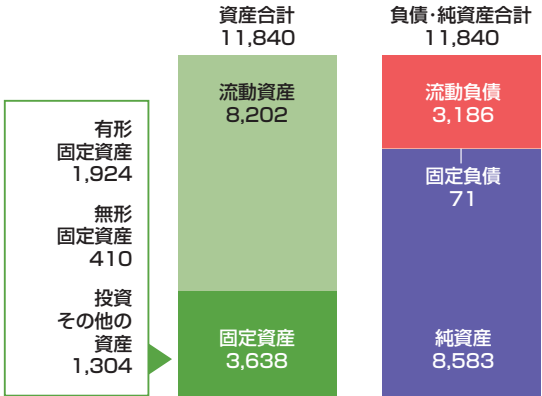


四半期連結貸借対照表の概要 (単位：百万円)

■ 第37期 (2014年3月31日現在)

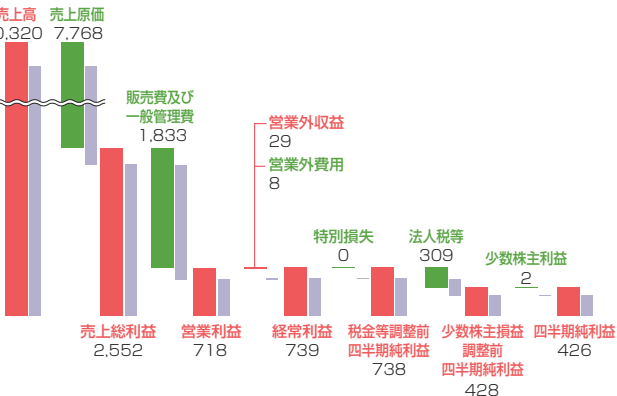


■ 第38期第2四半期 (2014年9月30日現在)



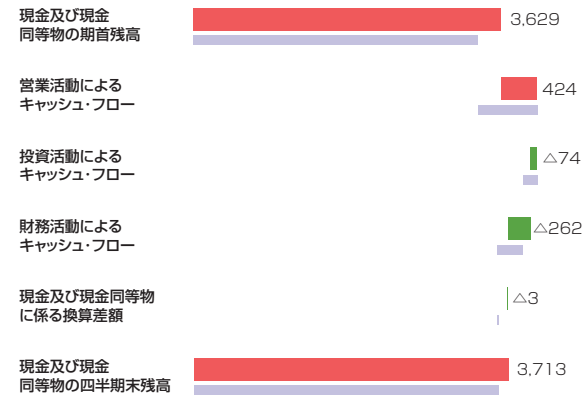
四半期連結損益計算書の概要 (単位：百万円)

■ は第37期第2四半期の状況



四半期連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位：百万円)

■ は第37期第2四半期の状況



株式の状況

(2014年9月30日現在)

発行可能株式総数	14,000,000株
発行済株式の総数	5,385,600株
株主数	3,576名

大株主（上位10名）

(2014年9月30日現在)

株主名	当社への出資状況	
	持株数（株）	出資比率（%）
有限会社斉藤ホールディングス	1,285,500	23.87
齋藤昭生	716,680	13.31
ビービーエイチ フォー フィデリティ ロー プライズド ストック ファンド	521,100	9.68
齋藤茂男	203,900	3.79
小林美保子	191,800	3.56
齋藤泰範	127,670	2.37
エイジス従業員持株会	96,356	1.79
清水昭順	90,170	1.67
ゴールドマンサックス インターナショナル	52,000	0.97
株式会社三菱東京UFJ銀行	44,000	0.82

(注) 当社は、自己株式604,030株を保有しておりますが、上記大株主から除外しております。

利益配分に関する基本方針

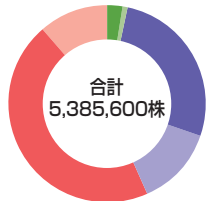
当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重点課題と位置付けており、長期的に安定した収益力を保持すると同時に、企業体質強化のための内部留保を勘案し、安定した利益配分を持続させることを基本方針としております。

当期の配当につきましては、1株当たり期末配当45円を予定しております。一方、内部留保資金につきましては、今後予想される経営環境の変化に対応すべく、今まで以上にコスト競争力を高め、市場ニーズに応える技術・オペレーション体制を強化するために有効投資してまいりたいと考えております。

所有者別分布状況

(2014年9月30日現在)

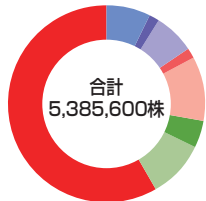
■ 金融機関	141,080株	(2.62%)
■ 金融商品取引業者	51,576株	(0.95%)
■ その他の法人	1,446,740株	(26.86%)
■ 外国法人等	707,000株	(13.13%)
■ 個人・その他	2,435,174株	(45.22%)
■ 自己名義株式	604,030株	(11.22%)



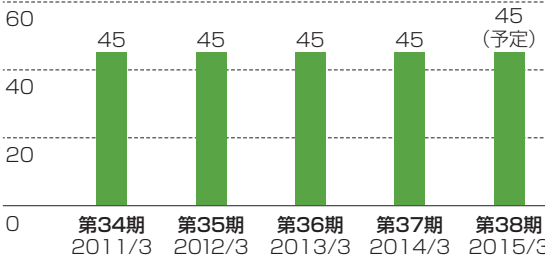
所有株数別分布状況

(2014年9月30日現在)

■ 1単元未満	3,577株	(0.06%)
■ 1単元以上	392,352株	(7.28%)
■ 5単元以上	82,760株	(1.54%)
■ 10単元以上	359,120株	(6.67%)
■ 50単元以上	89,470株	(1.66%)
■ 100単元以上	569,115株	(10.57%)
■ 500単元以上	238,526株	(4.43%)
■ 1,000単元以上	523,370株	(9.72%)
■ 5,000単元以上	3,127,310株	(58.07%)



1株当たりの配当金の推移 (単位：円)



会社概要

(2014年9月30日現在)

会 社 名	株式会社エイジス (英文名 AJIS CO., LTD.)
資 本 金	475百万円
設 立 年 月 日	1978年5月23日
従 業 員 数	255名 (694名 ※連結)
営 業 拠 点	直営44カ所 FC35カ所 (合計79カ所)
業 務 内 容	● 実地棚卸サービス ● その他の流通業周辺サービス
主要取引銀行	● 三菱東京UFJ銀行 ● 千葉銀行 ● みずほ銀行 ● 三井住友銀行
ホームページ	http://www.ajis-group.co.jp/

取締役および監査役

(2014年9月30日現在)

代表取締役社長	齋 藤 昭 生
常 務 取 締 役	近 江 元
常 務 取 締 役	高 橋 一 人
取 締 役	竹之下 正 夫
取 締 役	戸 丸 富志夫
取 締 役	山 根 洋 行
取 締 役	手 塚 勝 也
取 締 役	福 田 久 也
取 締 役	森 和 弘 (社外取締役)
常 勤 監 査 役	増 子 泰 由 (社外監査役)
監 査 役	鈴 木 行 雄
監 査 役	船 橋 茂 紀 (社外監査役)

主要取引先

(2014年9月30日現在)

コンビニエンスストア サークルKサンクス スリーエフ セーブオン	セブンイレブン・ジャパン ファミリーマート ポプラ	ミニストップ 山崎製パン ローソン
G.M.S./スーパーマーケット アルビス イオンリテール イズミ イズミヤ イトーヨーカ堂 いなげや ウオロク オークワ オオゼキ オギノ Olympic カスミ 関西スーパーマーケット	コープこうべ サミット G-7 スーパーマート 生活協同組合ユーコープ 生活協同組合コープネット事業連合 大黒天物産 東急ストア とりせん 長崎屋 原信ナルスホールディングス パロー ベイシア 平和堂	ベルク マックスバリュ各社 マルエツ 万代 みやぎ生協 ヤオコー ヤマザワ ヤマナカ ユニバース ヨークベニマル ライフコーポレーション
百貨店 大丸松坂屋百貨店 高島屋 天満屋	東急百貨店 阪急阪神百貨店 松屋	丸井 三越伊勢丹ホールディングス
ホームセンター/ドラッグストア/ディスカウントストア ウェルバーク カインズ カワチ薬品 クスリのアオキ クリエイト エス・ディー ケーヨー ゲンキー コーナン商事 コクミン	サンデ サンドラッグ CFSコーポレーション 島忠 スギ薬局 セキチュー ダイユーエイト 千葉薬品 富士薬品	PLANT ホームマック マツモトキヨシ ユタカファーマシー ユニリビング LIXILビバ ロイヤルホームセンター
書店 あおい書店 旭屋書店 ヴィレッジヴァンガードコーポレーション 勝木書店 カルチュア・コンビニエンス・クラブ 紀伊國屋書店	三省堂書店 三洋堂書店 JR東日本リテールネット ジュンク堂書店 文教堂 文真堂書店	丸善書店 宮脇書店 未来屋書店 有隣堂 リブロ
アパレル エディー・パウアー・ジャパン ギャップジャパン クリスチャン ディオール ゴールドウィン ザラ・ジャパン	ジョルジオ アルマーニ ジャパン 東京シャツ 西松屋チェーン バル ポイント	ポロラルフローレン ユニクロ ライトオン ワークマン ワールド
その他 赤ちゃん本舗 アディダス ジャパン エディオン キャンドゥ コーチ・ジャパン コジマ 上新電機	ゼビオ セリア 大創産業 東急ハンズ ドン・キホーテ 日本トイザらス ビックカメラ	藤久 メガススポーツ やまや 良品計画 ロフト ローソンHMVエンタテイメント ローソンマート

※ 敬称・法人格は省略させていただいております。 ※ 50音順